

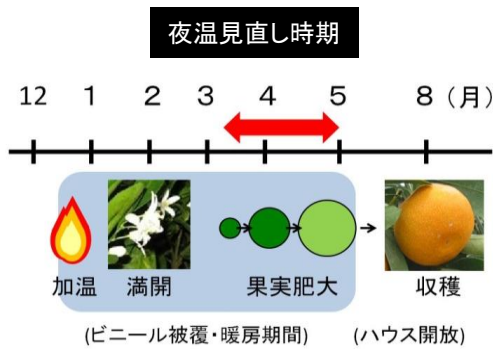
ハウスミカンの省エネルギー夜温管理 その①

農業研究部果樹グループ

1. 研究の背景

温州ミカンの幼果期（満開30～50日で果汁未発現な時期）は環境の変化に敏感で、この時期の低夜温は収量に負の影響を及ぼすことがわかっています。そこで、果汁発現期以降の夜温が果実生育に及ぼす影響を明らかにし、省エネルギー栽培を検討しました。

2. 研究成果の内容・普及のポイント



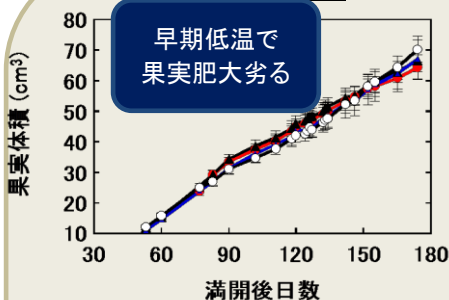
検討した夜温設定

- ①高夜温区（満開78～113 夜25℃）慣行
- ②後期変温区（満開91～120 夜変温）
- ③早期変温区（満開78～120 夜変温）
- ④低夜温区（満開78～120 夜17℃）

<夜変温～日射比例>

| | 日没 | 0時 | 夜明 |
|-------------------------|-----|-----|----|
| ☀ 7MJm ⁻² 以上 | 23℃ | 17℃ | |
| ☀ 2～7 MJm ⁻² | 20℃ | 17℃ | |
| ☁ 2MJm ⁻² 以下 | 17℃ | | |

果実肥大



果皮の着色

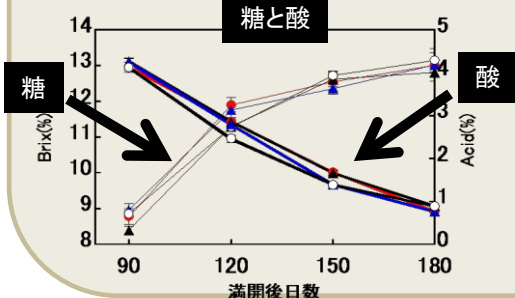


わかったこと

12月加温作型で、満開78～120日の低夜温は果実肥大を抑制したが、夜17℃の果実品質は慣行の夜25℃と同等。

果実品質、果皮着色に大きな差はない

果汁発現期以降の夜温は果実品質に大きな影響を及ぼさない



3. 期待される効果

- ・満開80～120日の夜17℃管理による10aあたり3kLの重油減

4. 担当機関連絡先

農業研究部果樹グループ温州ミカンチーム
 TEL：0978-72-0407
 住所：国東市国東町小原4402